

第 2 章 一般概況

1 地勢

山形県は、東北地方の南西部に位置し、県の北西側が日本海に面しています。北は秋田県、東から南は宮城、福島両県、南西は新潟県にそれぞれ隣接し、東西約 100km、南北約 160km、総面積は約 9,323km² で全国第 9 位の広さとなっています。

東の県境には標高 1,000m から 2,000m に及ぶ奥羽山脈が南北に走り、山形県が日本海側の気候に属する要因となっています。また、中央部には、出羽山地・月山・朝日山地が南北に延びています。北の秋田県境には烏海山 (2,236m)、南の新潟県境と福島県境には飯豊山地・吾妻連峰が連なっています。山形県の母なる川である最上川は、福島県境の吾妻連峰に源を発し、置賜地方、村山地方を北流し、最上地方で西に流れを変え、出羽山地を横切り、庄内平野を流れ、酒田市で日本海に注いでいます。

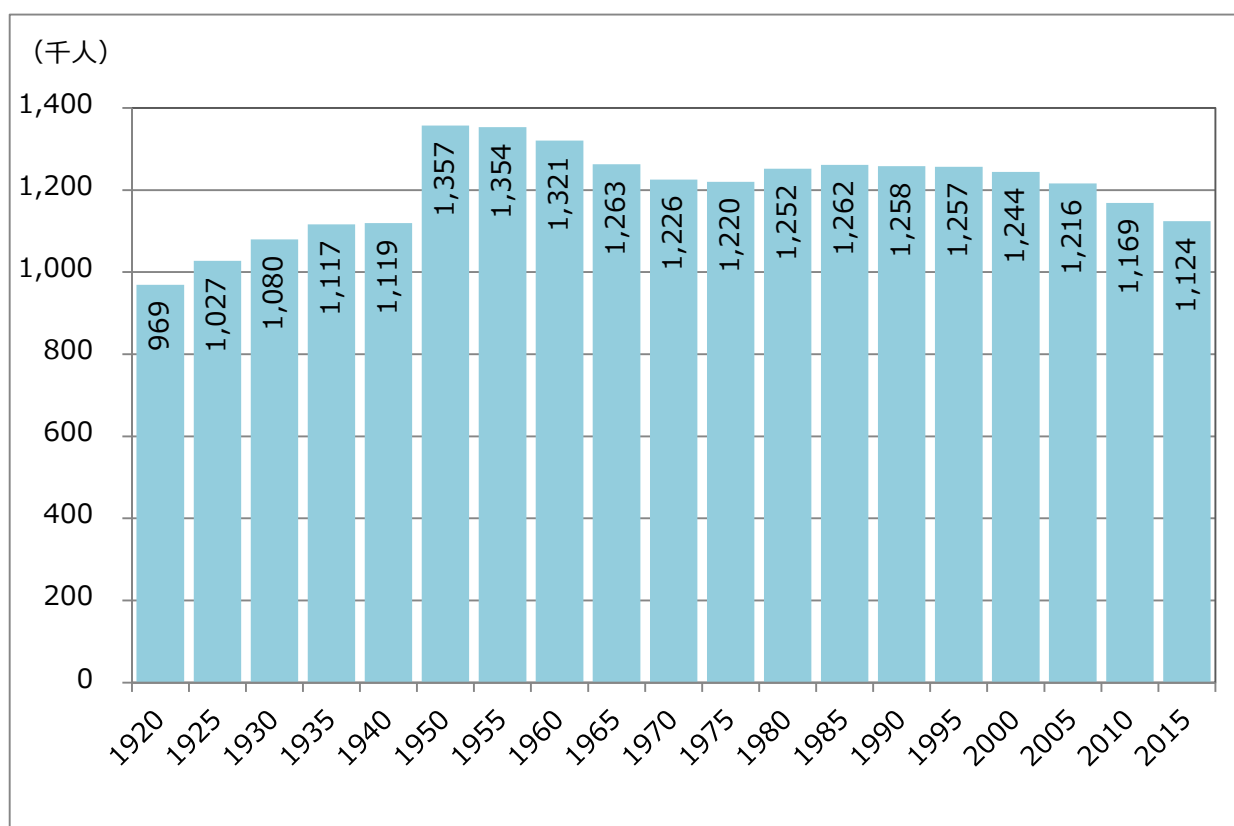
山形県の気候は、日本海に面する沿岸部と奥羽山脈西側の内陸部に大別されます。沿岸部の庄内地方は海洋性気候の特徴を持ち多雨多湿で、冬季には北西の季節風が強い地域です。内陸部は一日の最高気温と最低気温の差が大きく、山間部は多雪地帯となっています。新庄市を中心とする最上地方や米沢市を中心とする置賜地方は積雪が多く、山間部は多雪地帯となっています。

2 人口

本県の人口は、112万4千人（2015年（平成27年）国勢調査）となっており、全国の人口に対する比率は約1.0%となっています。県内の人口は1950年（昭和25年）の約135.7万人をピークに減少傾向が続き、1970年代半ばから増加傾向に転じたものの、その後、1990年代に入り再び減少に転じ、その傾向が続いています。

本県の人口の推移を図2-1に示します。

図 2-1 山形県の人口



【出典】「国勢調査結果」（総務省統計局）

3 産業

(1) 産業別就業者数

本県における産業3部門別の就業者数は第1次産業 51,681人（就業者数の9.4%）、第2次産業は 159,873人（同 29.1%）、第3次産業は 338,284人（同 61.5%）となっています。

全国と比較すると、第1次産業と第2次産業の割合が多く、第3次産業の割合が少なくなっていますが、第1次産業と第2次産業の減少と第3次産業の増加の傾向は全国と同様の状況となっています。

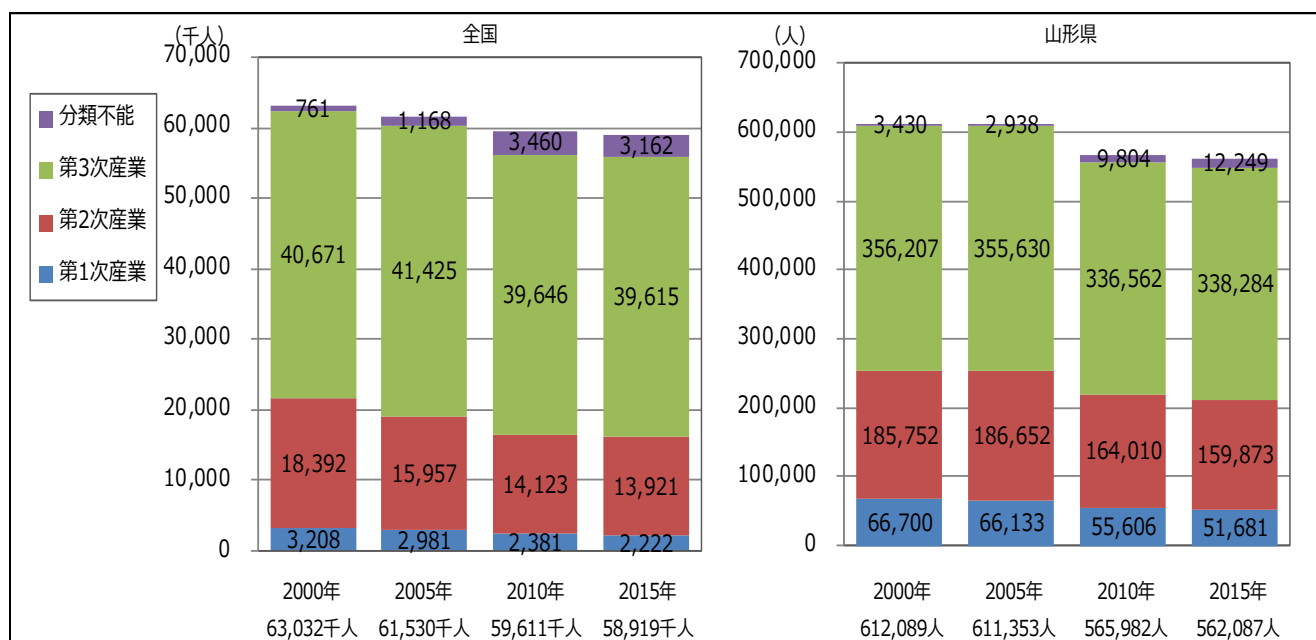
全国及び本県の産業3部門別人口を表 2-1 に、産業別人口の推移を図-2 に示します。

表 2-1 2015年度（平成27年度）の産業別人口

2015年	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能	合計
全国	2,222千人 4.0%	13,921千人 25.0%	39,615千人 71.0%	3,162千人	58,919千人
山形県	51,681人 9.4%	159,873人 29.1%	338,284人 61.5%	12,249人	562,087人

【出典】「国勢調査結果」（総務省統計局）

図 2-2 産業別人口の推移



【出典】「国勢調査結果」（総務省統計局）

(2) 事業所数

本県における2014年（平成26年）の事業所数は、59,333事業所（事業内容等が不詳の事業所を除く）となっており、事業所数は、経年的に減少傾向で推移しています。

事業所数を産業大分類別にみると、「卸売業、小売業」が14,984事業所（産業全体の25.3%）と最も多く、次いで「宿泊業、飲食サービス業」が7,045事業所（同11.9%）、「建設業」が6,516事業所（同11.0%）の順となっています。

産業大分類別の従業者数の構成比をみると、「製造業」が産業全体の20.2%と最も多く、次いで「卸売業、小売業」が18.2%、「医療、福祉」が13.8%となっています。

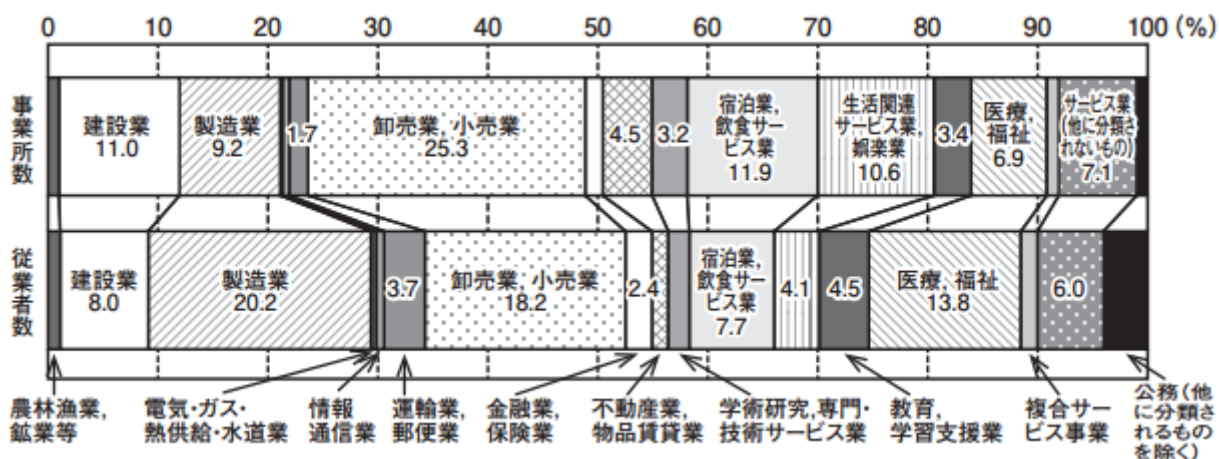
本県の事業所数の推移を表2-2に、産業大分類別事業所数・従業者数構成比（2014年）を図2-3に示します。

表 2-2 事業所数の推移

	1996年	2001年	2006年	2010年	2014年
山形県	73,602	70,521	65,796	64,257	59,333

【出典】「経済センサス-基礎調査」（総務省統計局）

図 2-3 産業大分類別事業所数・従業者数構成比（2014年）



【出典】「山形県勢要覧」（2017年刊）

(3) 製造品出荷額等

本県の工業（製造業）における2014年（平成26年）の製造品出荷額等は、26,081億円（名目値）となっています。製造品出荷額等（実質値）は、2006年（平成18年）までは減少傾向でしたが2010年（平成22年）以降は増加傾向で推移しています。

製造品出荷額等の産業別構成比をみると、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」が4,094億円（産業全体の15.7%）と最も多く、次いで「情報通信機械器具製造業」が3,608億円（同13.8%）、「食料品製造業」が3,011億円（同11.5%）となっています。

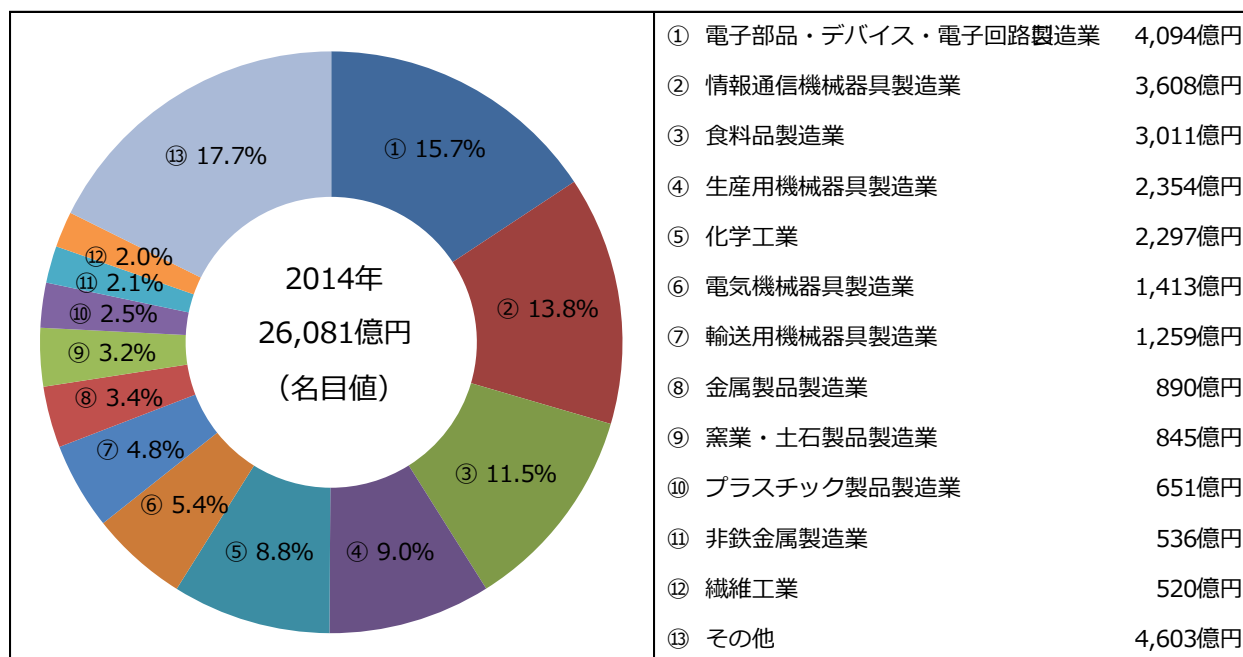
本県の製造品出荷額等の推移を表2-3に、製造品出荷額等の産業別構成比（2014年）を図2-4に示します。

表 2 - 3 製造品出荷額等の推移

製造品出荷額等	1996年	2001年	2006年	2010年	2014年
名目値（億円）①	27,559	26,399	23,966	23,958	26,081
鉱工業指数 ②	100.0	97.8	98.1	95.7	100.9
実質値（億円）①/②	27,559	26,993	24,430	25,034	25,848

【出典】「山形県統計年鑑」

図 2 - 4 製造品出荷額等の産業別構成比（2014年）



【出典】「山形県統計年鑑」

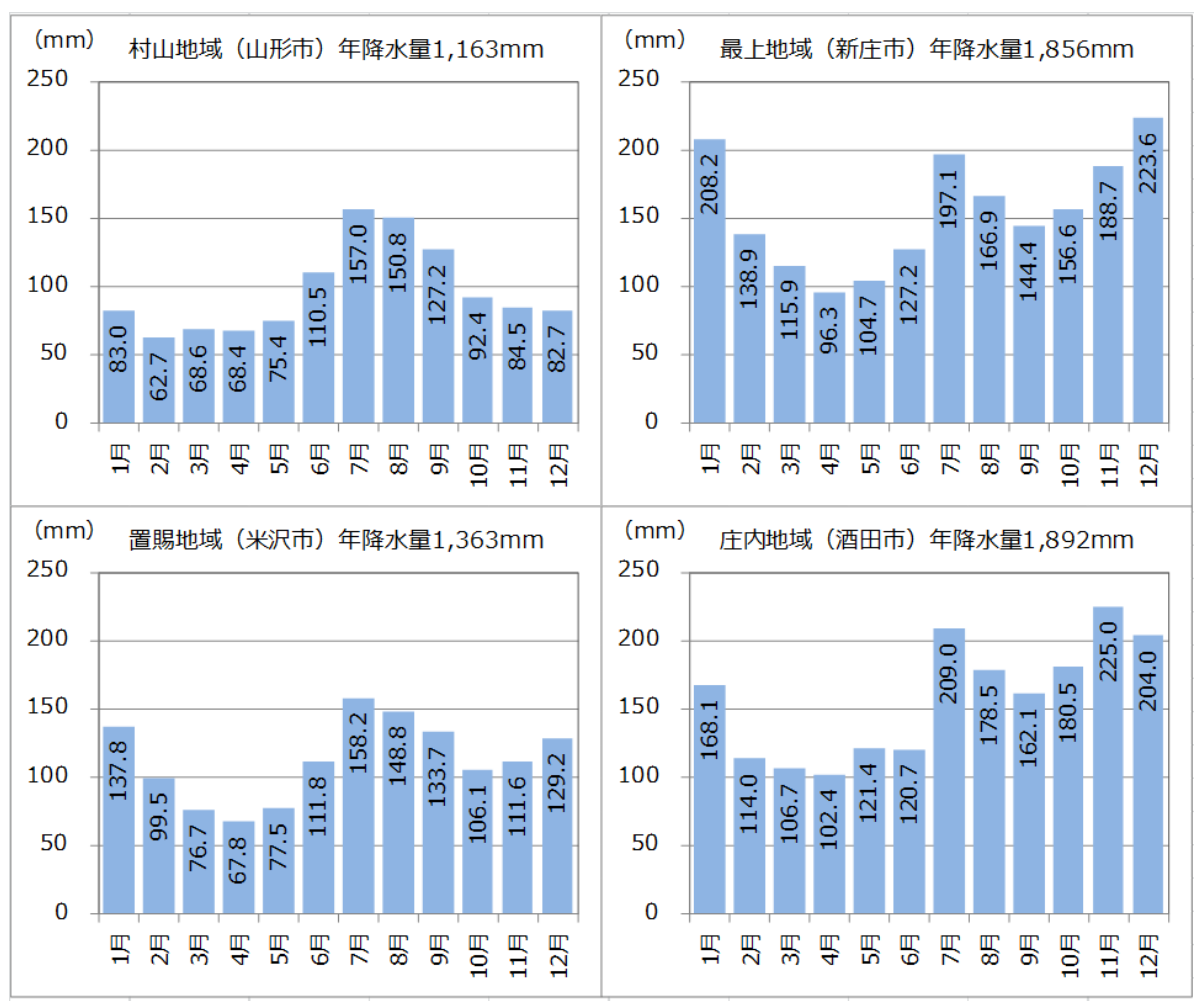
4 水資源

(1) 降水量

本県の気象特性は、日本海に面する沿岸部と内陸部に大別され、内陸部は更に最上、村山、置賜（おきたま）の3地域に分けられます。

山形市を中心とする村山地域の平野部は、4地域のうち最も年降水量が少ない傾向です。新庄市を中心とする最上地域は積雪が多く、夏季も比較的降水量が多くなっています。米沢市を中心とする置賜地方は多雪地帯となっています。庄内平野を中心とする海岸部は海洋性気候の特徴を持ち、4地域のうち最も年降水量が多い傾向にあります。4地域の降水量を図2-5に示します。

図 2 - 5 4 地域の降水量



【出典】「気象庁」、統計期間：1981～2010

(2) 河川

本県の一級河川の水系は、最上川水系、赤川水系、荒川水系の3水系となっています。

最上川水系は、本県の大動脈である最上川を根幹とする水系で、その流域面積は7,040km²と県全体の面積の76%を占めています。最上川本川の流路延長は約224kmで、428に及ぶ支川が合流し、支川を含めた流路延長は約2,485kmとなっています。

赤川水系は、大鳥池から発する大鳥川と、月山、湯殿山並びに朝日連峰に発する梵字川の二大支流が含まれています。

荒川水系は、県の西南部に位置する小国地方に源を発し、新潟県に流出する水系であり、本県はその上流地域を占めています。この水系は朝日岳に発する荒川を主流とし、横川及び玉川の二大支流が含まれています。

山形県の主な河川を表2-4に、山形県主要河川図を図2-6に示します。

表 2-4 山形県の主な河川

種別	水系名	主な河川名	流路延長
一級河川	最上川	最上川（松川を含む）、京田川、藤島川、立谷沢川、鮭川、泉田川、真室川、金山川、銅山川、最上小国川、丹生川、乱川、寒河江川、須川、馬見ヶ崎川、月布川、朝日川、置賜野川、置賜白川、犬川、吉野川、鬼面川（大樽川を含む）	2,484,520m
	赤川	赤川、大山川、梵字川	277,340m
	荒川	荒川（山形県内分）、玉川、横川	168,995m

【出典】「山形県河川調書」

